

カテゴリーである。本研究では DSM-IV の診断基準に合わせた面接調査票を用いている。

以下にその診断基準を示す。

臨床的に著名な障害や苦痛を引き起こす不適応的なアルコール使用様式で、以下の少なくとも一つが 12 か月以内に起こることによって示される。症状は依存の診断基準を満たしたことはない。

- (1) アルコールの反復的な使用の結果、仕事、学校、または家庭の重要な役割義務を果たすことができなくなる。
- (2) 身体的危険のある状況でアルコールを反復使用する。
- (3) 反復的に引き起こされるアルコール関連の法律上の問題。
- (4) 持続的、反復的な社会的または対人関係の問題がアルコールの影響により引き起こされたり、悪化したりしているにもかかわらず、アルコール使用を継続する。

診断基準ではアルコールを含むすべての精神作用物質に共通するが、ここでは作用物質はアルコールに限定して記載した。調査では最近 1 年間および生涯にわたって該当する項目について聴取した。

⑥ アルコール依存症の同定

本研究では DSM-IV の診断基準に合わせた面接調査票を用いている。

以下にその診断基準を示す。

臨床的に重大な障害や苦痛を引き起こすアルコール使用の不適応的な様式で以下の 3 つ（またはそれ以上）が、同じ 12 か月の期間内のどこかで起こることによって示される。調査では過去 1 年間および生涯に

わたって該当する項目があるか聴取した。

- (1) 耐性、以下のいずれかによって定義されるもの：a. 酩酊または希望の効果を得るために著しく増大した量のアルコールが必要 b. アルコールの同じ量の持続使用により、著しく効果が減弱
- (2) 離脱、以下のいずれかによって定義されるもの：a. アルコールに特徴的な離脱症候群がある b. 離脱症状を軽減したり回避したりするために、アルコールを摂取する
- (3) アルコールをはじめのつもりより大量に、またはより長い期間、しばしば使用する
- (4) アルコールを中止、または制限しようとする持続的な欲求または努力の不成功のあること
- (5) アルコールを得るために必要な活動（例：長距離を運転する）、アルコール使用（例：立て続けに飲む）、またはその作用からの回復などに費やされる時間の大きいこと
- (6) アルコールの使用のために重要な社会的、職業的または娯乐的活動を放棄、または減少させていること
- (7) 精神的または身体的問題がアルコールによって持続的、または反復的に起こり、悪化しているらしいことを知っているにもかかわらず、アルコール使用を続ける

（倫理面への配慮）

本研究は独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター倫理審査委員会の承認を

得て実施した。調査対象者に対しては、調査の趣旨・内容・方法を記した依頼状を郵送して、調査の内容を伝え、その後に調査員が自宅を訪問して、対象者に調査の趣旨、内容、方法をよく説明して書面による同意を得た上で調査を実施した。また、得られた情報は厳密に保管して、本調査の関係者以外が取り扱えないよう配慮し、個人情報の漏洩予防には十分な対策を講じた。データの公表の際には個人名などの個人が特定される情報は削除し、個人情報の保護には十分配慮する。

C. 研究結果

1. 回答者の背景情報(表1~7)

回答者の性別、年齢別および住居地域別分布は付表の基本集計の通りである。男性は沿岸部436名、内陸部426名、女性は沿岸部570名、内陸部545名から回答を得た。平均年齢は沿岸部男性が58.4±13.7歳、内陸部男性が54.3±15.3歳、沿岸部女性が56.6±15.0歳、内陸部女性が52.3±15.6歳と男女とも内陸部で年齢が若い。

回答者の教育歴は学校に通った年数を尋ねている。中学卒業程度の9年までが男性は28.5%、女性は26.1%、高校中退または卒業程度の9年~12年が男性44.1%、女性は50.2%であった。

婚姻状況は配偶者と同居している者が男性の65.0%、女性の54.3%と最多であり、その次は男性では未婚が18.6%、女性では死別が22.7%と多かった。

同居家族数は本人を含めて2名が最多であり、男性の34.2%、女性の29.3%を占めた。次に多いのは男性は1名、3名がそれぞれ19.7%と同率であり、女性は3名が

21.1%、1名が19.4%という順番であった。

職業は男性では無職が44.6%、勤め(正社員・職員)が27.8%と多く、女性では専業主婦が31.9%、無職27.3%の順であった。

回答者の収入は男性では100~200万円未満が27.0%、200~300万円が未満21.6%と多く、女性では100万円未満が37.7%、100~200万円未満が24.1%の順であった。

2. 被災関連の情報(表8~11)

震災による仕事への影響については、内陸部では変化なしが、男性の87.7%、女性の93.1%、震災による失業は男性の2.2%、女性の1.6%であったのに対して沿岸部では変化なしが男性の58.6%、女性の70.5%、震災による失業は男性の23.4%、女性の22.3%と内陸部と沿岸部で大きく異なっていた。

家屋の被災状況については、内陸部では男性の91.1%、女性の88.8%が全壊、大規模半壊も男性の5.5%、女性の7.7%でほとんどの回答者が家屋を失っている。一方、内陸部では一部損壊が男性の34.5%、女性の36.9%だが、損壊なしが男性の57.5%、女性の55.6%であり、ほとんどの回答者が影響を受けていない。

住居については内陸部では男性の95.9%、女性の96.8%が震災前と同じと回答しているのに対して、沿岸部では男性の97.5%、女性の97.0%がプレハブ型仮設住宅と回答している。

家族・親戚の中での被害者の有無については、内陸部では男性の9.6%、女性の9.7%が被害者ありと回答しているのに対して、沿岸部では男性の45.9%、女性の52.3%が被害者ありと回答している。

3. 飲酒パターン

飲酒については面接調査票にてアルコール飲料を飲んだ経験の有無、飲酒頻度、飲酒量、飲酒開始年齢、少量の飲酒による顔面紅潮の有無、自記式調査票では各スクリーニングテストに加えて寝酒の習慣の有無と頻度を聴取している。

ここでは、震災の飲酒行動に及ぼす影響を検討するため、まず沿岸部と内陸部を比較する。被災状況による飲酒行動への影響は後述する。

1) 飲酒経験の有無(表 12)

男女で比較すると沿岸部・内陸部とも男性で経験者の割合が高い。沿岸部男性では 86.2%、女性の 51.1%が飲酒経験ありと回答している。一方、内陸部では男性の 92.0%、女性の 66.8%に飲酒経験がある。沿岸部と内陸部で比較すると男女とも内陸部で飲酒経験のある者が有意に高い割合でみられた。この割合の差は特に女性の場合は沿岸部で平均年齢が高いことが影響している可能性が考えられる。

2) 初めて飲酒した年齢

初めて飲酒した年齢は、沿岸部では男性の平均が、 19.8 ± 3.6 歳、女性は 22.7 ± 7.6 歳、内陸部では男性 19.9 ± 3.5 、女性 21.9 ± 6.5 歳と沿岸部・内陸部とも男性の方が若い年齢で飲酒を開始したことが明らかだが、沿岸部・内陸部での有意差は認められなかった。

3) 飲酒頻度(表 13)

飲酒頻度は面接調査および自記式質問票 (AUDIT) で確認しているが、表には面接調査で聴取した頻度を集計した。調査では平均的な飲酒の頻度を質問している。

表には年代・性別の飲酒頻度を示したが、男女とも年齢によって頻度が異なるこ

とが明らかである。男性の場合、20 歳代では最も多い頻度は月に 2~4 日、30 歳代では月 1 日以下だが、40 歳代以上では毎日が最多となり、70 歳代前半まで同じ傾向になっている。一方、女性の場合は男性より飲酒頻度の少ないことが明らかであり、20 歳代および 40 歳代~60 歳代前半では月 1 日以下が最多で、その他の年代では過去 1 年間飲酒していない者が最も多い。このように、本調査では飲酒頻度の性差、年齢による違いが明らかとなった。この結果は他の飲酒実態調査とほぼ一致するものである。

過去 1 年間に飲酒していないと回答したのは沿岸部男性の 21.8%、女性の 33.3%、内陸部男性の 16.1%、女性の 22.3%と飲酒経験同様に内陸部で飲酒の頻度が男女とも高い。しかし、毎日飲酒すると回答した男性は沿岸部で 39.9%に対して内陸部では 32.7%と沿岸部に多い。一方、女性の場合は毎日、週 3~6 日とも沿岸部の女性の方が内陸部の女性より低い割合であり、沿岸部の女性の飲酒頻度の低いことが明らかになった(表 14)。

4) 飲酒量(表 15)

飲酒量は飲酒機会によって大きく異なることが一般的である。本調査では過去 1 年間に飲酒経験のあった者に対して普段の 1 日の飲酒量を質問している。酒類を a. ビール・発泡酒、b. 日本酒、c. 焼酎、d. 酎ハイ類、e. カクテル類、f. ワイン、g. ウイスキー類、h. その他に分類して、酒類ごとにコップの写真を見てもらいながら量を推計して飲酒量を調査する方法を採用した。集計には各飲料に含まれる純アルコール量を用いた。なお、アルコール量の単位には純アルコール 10 グラムを 1 単位として集計

した。

表には飲酒経験のある者のみの集計を示す。沿岸部、内陸部で比較すると男性では沿岸部でやや多い傾向があるが、統計的に有意ではない。女性の場合も飲酒量に有意な差を認めない。

さらに、AUDIT スクリーニングテストの2問目にある質問に対する回答結果を表に示した(表 16)。AUDIT では通常の飲酒量を表のように分類して回答するように質問している。性別に沿岸部・内陸部での比較を示したが、男女とも飲まないという結果であった(表 17)。

5) 多量飲酒頻度

次に多量に飲酒する頻度を検討した。AUDIT では質問の3番目に1度に6単位以上飲酒する頻度について質問している。多量飲酒の定義はさまざまだが、国内外の飲酒実態調査では1回あたり純アルコール換算で60グラム以上の飲酒を多量飲酒とすることが多い。

表 18 には性別・年代別の多量飲酒頻度を示した。女性では20歳～40歳代で月1回未満程度の頻度で多量飲酒する者の割合が高く、それ以上の年代では多量飲酒頻度はほとんどない。一方、男性は20歳代の頻度が少ないのに対して30歳代以上の年代で割合は少ないながら多量飲酒を定期的に行っている者の割合が高くなることわかる。

多量飲酒の頻度を沿岸部・内陸部で比較すると、男性では、ほぼ毎日と回答した者の割合が沿岸部では5.8%なのに対して内陸部では2.7%と沿岸部で多い。一方、女性では内陸部で多量飲酒頻度の高い者が多い

(表 19)。

6) 寝酒の習慣(表 20, 21)

眠りを助けるために飲酒することを寝酒と定義してその習慣の有無、頻度について質問している。表には性別・年代別に寝酒の頻度を示す。男性の場合は中年から高齢の世代で寝酒の頻度が高い傾向にある。女性は男性より頻度がかかなり少ないが、中年の世代でやや頻度が高い傾向がみられる。

寝酒の頻度は沿岸部・内陸部で男女とも違いはみられなかった。

4. AUDIT、CAGE テスト(表 22～27)

これらのテストはいずれも国外から導入された。両テストとも国内外で広く使用されているものである。

1) AUDIT

表にはカットオフ値を8点、12点、15点とした場合の割合を性別・年代別に示した。

男性の場合、いずれのカットオフ値においても50歳代、70歳代前半で割合の高い者が多い。一方、女性の場合は低いカットオフ値では20歳代、30歳代が多いが、高いカットオフ値では40歳代、50歳代が多いという結果である。

沿岸部と内陸部の比較では、男性の場合、8点、12点のカットオフでは有意差を認めない。15点では沿岸部で15点以上のものが内陸部よりやや多いが、カイ二乗検定では10%未満と傾向にとどまっている。女性ではいずれのカットオフ値にも沿岸部・内陸部での差が認められなかった。

2) CAGE

表には性別・年代別の点数を示した。男性では AUDIT と同様に若い世代で陰性者

が多く、40歳代以上の年代で陽性者の割合が高くなる。女性では男性より点数の低い者が多いが、20歳代から40歳代で1点以上の割合が高い。

表にはCAGE 2点以上の者の割合を性別に沿岸部・内陸部で比較した結果を示すが、男女とも地域による明らかな違いは認められなかった。

5. DSM-IV 基準による乱用・依存の割合

表 28 には性別・年代別に乱用・依存の基準を最近12カ月間と1年以上前の過去に分けて該当する者の割合を示した。

1) アルコール乱用

現在の乱用者は男女とも極めて少ない。一方、過去に乱用の基準に該当した者の割合は男性では60歳代前半で最多であり、60歳代後半、40歳代が次ぐ。女性の場合は生涯の乱用は20歳代、50歳代で最多である。男性は高齢者の乱用、女性は若年者の乱用の割合が高いという特徴がある。対象者全体では過去1年間に乱用の基準に該当するものは男性1.2%、女性0.2%、生涯の乱用の基準に該当するものは男性9.2%、女性1.3%であった。

2) アルコール依存

現在の依存の基準に該当する者の割合は男性では50歳代が最多であり、30歳代が次ぐ。女性は男性に比べるとほとんど該当する者がいないが、20歳代では約4%が該当している。対象者全体では男性の4.2%、女性の1.1%が現在の依存症の基準に該当した。一方、生涯の依存も同様の傾向であった。対象者全体では男性の4.5%、女性の0.6%が生涯の依存症の基準に該当した。

沿岸部と内陸部の比較(表 29~32)では依存、乱用ともに該当する者の割合に違い

が認められなかった。

6. 喫煙(表 33~37)

喫煙に関しては過去に100本以上のたばこを吸ったことがあるものを喫煙経験あり、ない者を非喫煙者と定義した。さらに、調査前1カ月間に喫煙ありと回答したものを喫煙者、過去1か月間には飲酒していないと回答したものを元喫煙者と定義して、表にその割合を男女・年代別に示した。

1) 喫煙者の割合

全体では非喫煙者は男性の33.5%、女性の74.7%、元喫煙者は男性の27.7%、女性の9.0%、現在の喫煙者は男性の38.8%、女性の16.3%であった。男性では30歳代から60歳代前半で喫煙者の割合が高く、女性では20、30歳代で割合が高い。

喫煙者の割合を沿岸部・内陸部で比較すると、男女ともその割合が沿岸部で有意に高いことが示された。

2) ニコチン依存のスクリーニングテスト

この調査では2種類のスクリーニングテストを実施している。表にはFTND、TDSそれぞれのカットオフ基準値での割合を性別・年代別に示す。男女ともFTNDの方が陽性率が低い。

沿岸部・内陸部で比較するとFTNDの陽性率は男女とも沿岸部で有意に高い。一方、TDSは男性では沿岸部で陽性率が高い傾向にあるが統計的に有意ではない。一方、女性は沿岸部で陽性率が高い。いずれも、ニコチン依存に関しては男女とも沿岸部で内陸部より有意に多いということが言える。

7. インターネット依存質問票(表 38, 39)

表にはIAT40点以上の者の割合を性別・年代別に示す。表から明らかなようにインターネット依存が疑われるIAT40点以

上のものは男女とも 20 歳代で最多であり、30 歳代が次ぎ、それ以上の年代ではほとんどゼロに近い。

内陸部・沿岸部での比較では、IAT40 点以上の者は内陸部に有意に多いことがわかる。被災によるインターネット環境の変化や内陸部は沿岸部より若い世代が多いことが影響しているものと考えられる。

8. ギャンブル依存質問票(表 40、41)

SOGS5 点以上の者の割合を性別・世代別に表に示す。性別では男性に多く、年代では男性は 20 歳代から 40 歳代、女性は 20 歳代から 50 歳代に多いという特徴がある。

沿岸部と内陸部の比較では両者に有意な差を認めなかった。

9. 睡眠薬の使用とベンゾジアゼピン系薬物依存(表 42～45)

本調査では自記式質問票に睡眠に関する質問項目が含まれており、「眠りを助けるために睡眠剤や安定剤を使うことがありますか」という設問がある。さらに使うことがある場合にはその頻度を回答してもらう。

表にはその頻度を性別・年代別に示す。1 週間に 5 日以上とほぼ毎日使用している者の割合は性別では女性に多く、年代では男女とも 70 歳代の高齢者に多いことがわかる。

その頻度を沿岸部・内陸部で比較すると、男性では両群で差を認めないが、女性の場合は沿岸部で有意に頻度が高い。

BDEPQ の 23 点以上の者の割合を性別・年代別に示すが、睡眠薬の使用頻度と同様に女性に多く、男女とも 70 歳代で最多の割合となっている。

BDEPQ23 点以上の割合を沿岸部・内陸部で比較すると、男性では沿岸部も内陸部

も同率であるが、女性では沿岸部では内陸部の倍以上の割合となっている。

10. AUDIT と他のスクリーニングテスト結果との相関について(表 46～52)

表には AUDIT8 点以上と他のスクリーニングテストとのクロス集計を示す。AUDIT はニコチン依存スクリーニングテストとは FTND、TDS とともに男女共通して強い相関を示しており、アルコール問題と喫煙は相関が強いことを示す。

一方、インターネットとは有意な相関を認めなかった。ギャンブル依存は男女とも AUDIT8 点以上の者で SOGS5 点以上のものが多い傾向にあるが、統計的には有意ではない。女性の場合はカットオフ値以上の者の割合が低く、統計パワーが低いことも原因となっていると考えられる。

睡眠薬の使用頻度に関しては、特に女性の場合は AUDIT8 点以上のものでは睡眠薬を毎日のように使用する者はおらず、睡眠薬の使用頻度とアルコール関連問題は逆相関になっている。BDEPQ と AUDIT は相関を認めなかった。

寝酒とのクロス集計では強い相関が認められ、AUDIT8 点以上の者では寝酒の頻度が有意に高く、アルコールを睡眠薬代わりに使用している可能性を示唆するものともいえる。

11. 被災状況と飲酒行動(表 53～63)

次に被災状況と飲酒関連行動との関連をみる。

普段の飲酒量(6 単位未満、6 単位以上)と被災状況をみると、家屋の損壊、住居、家族の犠牲者の有無との関連はないが、震災による仕事の変化との関連をみると、男性では震災で失業した者は仕事に変化のな

かったものと比べて多量に飲酒するものの割合が有意に高いことがわかった。しかし、女性の場合にはこのような関連は認められない。

1 2. 被災状況と多量飲酒頻度

多量飲酒の頻度との関連では家屋の損壊のあったものは男女とも多量飲酒の少ないことが示されている。また、震災によって失業した男性は多量飲酒の頻度が高い。

1 3. 被災状況と AUDIT、CAGE

家屋損壊の有無、住居、家族の犠牲者の有無と AUDIT、CAGE 得点とは男女とも関連が認められなかった。しかし、男性の場合のみ震災による失業者は AUDIT で 8 点以上のものの割合が有意に高いことが示された。

一方、CAGE ではいずれの被災状況との関連も認められなかった。

1 4. 被災状況と DSM-IV アルコール依存・乱用

DSM-IV によるアルコール依存および乱用の該当の有無と被災状況との関連をみると、家屋損壊の有無、住居、家族の犠牲者の有無との関連は認められなかった。震災によって失業した男性ではアルコール依存が多い傾向がみられるが、該当する人数が少ないこともあって統計的に有意ではない。

1 5. 被災状況と睡眠薬の使用

睡眠薬の使用頻度との関連では、男性はいずれも関連を認めないが、女性の場合は仮設住宅に居住するものでは使用頻度が有意に高い。

1 6. 被災状況とニコチン依存

男性では被災状況との関連は認められなかったが、女性の場合は FTND、TDS ともにカットオフ値を上回るものの頻度が仮設

住宅居住者で高く、TDS では家屋損壊のある女性は家屋損壊のない女性より 5 点以上の者の割合が高い。女性の場合は家屋を失い、仮設住宅に居住することとニコチン依存は関連が認められる。

1 7. 被災状況とインターネット依存

IAT40 点以上と被災状況のクロス集計ではむしろ被災のないもので 40 点以上の割合が高いという結果であり、被災状況との関連は認められない。しかし、被災で失業した男性では IAT40 点以上の割合が高く、関連する可能性がある。

1 8. 被災状況とギャンブル依存

被災状況と SOGS 得点との関連では、家屋の損壊、住居、家族の犠牲者の有無、震災による仕事の変化のいずれも関連は認められず、被災とギャンブル依存の関連を示唆する結果は得られなかった。

1 9. 被災状況とベンゾジアゼピン系薬物依存

被災状況と BDEPQ 得点との関連を見ると、家屋の損壊との関連は認められない。しかし、仮設住宅に居住する女性は 23 点以上の者の割合が有意に高い。震災による失業や家族の被害者の有無との関連は認められない。仮設住宅の居住がベンゾジアゼピン依存に関連する可能性が示唆された。

D. 考察

本研究は一般住民調査を用いて震災被害がアルコール関連問題や嗜癖行動へ及ぼす影響について検討したものである。被害が甚大であった沿岸部と内陸部の住民の比較および被災状況との関連を検討することによってその影響を検討した。

まず、本調査結果を 2008 年に実施され

た全国調査 11)と比較すると、AUDIT8 点以上の割合は岩手・宮城県の男性 22.6%、女性 3.4%が該当したが、全国調査では男性 22.9%、女性 3.6%とほぼ同様の割合であった。AUDIT12 点以上は岩手・宮城県では男性 9.6%、女性 1.7%であったのに対して全国調査では男性 10.5%、女性 1.7%とやはりほぼ同じ割合である。AUDIT15 点以上の割合は岩手・宮城県の男性 4.5%、女性 0.9%であったのに対して全国調査では男性 5.7%、女性 0.8%と男性ではやや少ない割合となっていた。

喫煙者の割合は岩手・宮城県では男性 38.3%、女性 12.3%であったが、この結果を平成 23 年の国民栄養調査 12)の結果と比較すると男性 32.4%、女性 9.7%と男女とも全国の喫煙者割合より高い結果である。

FTND7 点以上の割合は岩手・宮城県では男性の 5.7%、女性の 1.4%が該当したのに対して全国調査では男性 5.1%、女性 0.6%と今回の調査で特に女性では高くなっていた。

インターネット依存の IAT40 点以上の割合は岩手・宮城県の男性 3.2%、女性 1.3%に対して全国調査では男性 2.9%、女性 2.0%と女性でやや高い傾向にあった。

ギャンプルに関しては SOGS5 点以上の割合は岩手・宮城県では男性 11.7%、女性 2.1%であったのに対して全国調査では男性 9.5%、女性 1.6%と男女ともやや高い割合であった。

今回の調査で震災の影響を検討するために沿岸部と内陸部での比較と被災状況との関係について集計した。

飲酒、喫煙状況やスクリーニングテストの結果で沿岸部と内陸部を比較して沿岸

部で割合が明らかに高かった項目としては、

- ① 多量飲酒頻度(男性)、② 喫煙率(男女)、
- ③ FTND7 点以上(男女)、④ TDS5 点以上(女性のみ)、⑤ 睡眠薬の使用頻度(女性のみ)、
- ⑥ BDEPQ23 点以上の割合(女性のみ)。

被災状況と有意な相関が認められた項目は以下のものであった。震災による失業と 1 日当たりの飲酒量(6 単位以上)(男性のみ)、震災による失業と AUDIT8 点以上の割合(男性のみ)、仮設住宅居住と睡眠薬使用頻度(女性のみ)、仮設住宅の居住と FTND7 点以上の割合(女性のみ)、TDS5 点以上の割合と家屋損壊および仮設住宅居住(女性のみ)、BDEPQ23 点以上の割合と仮設住宅居住(女性のみ)。

E. 結論

本研究の目的は、被災地におけるアルコール関連問題や嗜癖行動の実態を調査し、震災との関連を検討して予防策を検討することにある。

本年度は実態調査を実施した。調査の概要および主要な結果は以下の通りである。

- 7) 層化 2 段無作為抽出法により岩手県・宮城県の成人住民から抽出した 3,600 名に対して面接および自記式からなる調査票を用いて飲酒行動、アルコール関連問題、嗜癖行動に関する調査を実施した。有効回答は面接調査が 1978 名(54.9%)、自記式質問票は 1904 名(52.9%)から得られた。
- 8) 調査前 1 年間に飲酒した者を飲酒者と定義すると、その割合は沿岸部では男性 78.2%、女性 66.7%、内陸部では男性 83.9%、女性 77.8%と男女とも内陸部で高率であった。

- 9) 調査対象者の喫煙率は男性 38.3%、女性 12.3%であった。
- 1 0) DSM-IV によるアルコール依存に該当するものの割合は、最近 1 年間の基準に該当するものは男性の 4.2%、女性の 1.1%であり、生涯の依存症の基準に該当するものは男性の 4.5%、女性の 0.6%であった。
- 1 1) DSM-IV によるアルコール乱用の基準に該当する者の割合は、過去 1 年間に乱用の基準に該当するものは男性 1.2%、女性 0.2%、生涯の乱用の基準に該当するものは男性 9.2%、女性 1.3%であった。
- 1 2) 岩手県・宮城県を内陸部と沿岸部に分けて被災の影響を検討したところ、沿岸部の住民で高い割合で認められた項目は、多量飲酒頻度（男性のみ）、喫煙率（男女）、FTND7 点以上（男女）、TDS5 点以上（女性のみ）、睡眠薬の使用頻度（女性のみ）、BDEPQ23 点以上の割合（女性のみ）であった。
- 1 3) 被災状況との関連において有意な相関を示した項目は、① 震災による失業と 1 日当たりの飲酒量（6 単位以上）（男性のみ）、② 震災による失業と AUDIT8 点以上の割合（男性のみ）、③ 仮設住宅居住と睡眠薬使用頻度（女性のみ）、④ 仮設住宅の居住と FTND7 点以上の割合（女性のみ）、⑤ TDS5 点以上の割合と家屋損壊および仮設住宅居住（女性のみ）、⑥ BDEPQ23 点以上の割合と仮設住宅居住（女性のみ）。

以上の結果より、男性では震災による失業が多量飲酒と関連してアルコール関連

問題の割合を高めている可能性が示唆され、女性では仮設住宅に居住している者で喫煙率が高く、睡眠薬の使用者が多く、ニコチン依存、ベンゾジアゼピン依存の可能性のある者の割合が高いという結論となる。

参考文献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, American Psychiatric Association, Washington, D.C., 1994 (高橋三郎, 大野 裕, 染谷俊幸訳: DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院、東京、1995)
- 2) Grant BF, Dawson DA, Stinson FS, et al.: The 12-month prevalence and trends in DSM-IV alcohol abuse and dependence: United States, 1991-1992 and 2001-2002. Drug Alcohol Depend, 74: 223-234, 2004.
- 3) Saunders JB, Aasland OG: WHO Collaborative Project on Identification and Treatment of Persons with Harmful Alcohol Consumption, Report on Phase I. Development of a Screening Instrument (MNH/DAT/86.3), World Health Organization, Geneva, 1987.
- 4) 廣尚典、島 悟: 問題飲酒指標 AUDIT 日本語版の有用性に関する検討。日本アルコール・薬物医学会雑誌 31; 437-450, 1996.
- 5) Mayfield DG, McLeod G, Hall P: The CAGE questionnaire: validation of a new alcoholism screening instrument. Am J Psychiatry, 131: 1121-1123, 1974.
- 6) Heatherton TF, Kozlowski LT, Frecker RC, et al.: The Fagerström Test for Nicotine

Dependence: a revision of the Fagerström Tolerance Questionnaire. Br J Addict, 86: 1119-1127, 1991.

7) Kawakami N, Takatsuka N, Inaba S, et al.: Development of a screening questionnaire for tobacco/nicotine dependence according to ICD-10, DSM-II-R, and DSM-IV. Addict Behav, 24: 155-166, 1999.

8) Young KS: Caught in the Net. John Wiley & Sons, Inc., New York, 1998.

9) Lesieur HR, Blume SB: The South Oaks Gambling Screen (SOGS): a new instrument for the identification of pathological gamblers. Am J Psychiatry, 144: 1184-1188, 1987.

10) Baillie AJ, et al.: The Benzodiazepine Dependence Questionnaire: Development, reliability and validity. Br J Psychiatry, 169: 276-281, 1996.

11) 飲酒に関する 2008 年全国調査

12) 厚生労働省「国民栄養の現状」(国民栄養調査結果)

<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd100000.html>

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし

表 1 基本集計（性・年齢階級別、住居地別 回答数）

年齢 階級	沿岸部						内陸部					
	男性		女性		男女計		男性		女性		男女計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
20 歳代	17	3.9	29	5.1	46	4.6	32	7.5	51	9.4	83	8.5
30 歳代	28	6.4	67	11.8	95	9.4	57	13.4	88	16.1	145	14.9
40 歳代	66	15.1	97	17.0	163	16.2	65	15.3	81	14.9	146	15.0
50 歳代	78	17.9	80	14.0	158	15.7	73	17.1	120	22.0	193	19.9
60-64 歳	71	16.3	73	12.8	144	14.3	71	16.7	74	13.6	145	14.9
65-69 歳	72	16.5	82	14.4	154	15.3	65	15.3	51	9.4	116	12.0
70-74 歳	75	17.2	94	16.5	169	16.8	42	9.9	51	9.4	93	9.6
75 歳以上	29	6.7	48	8.4	77	7.7	21	4.9	29	5.3	50	5.2
合計	436	100.0	570	100.0	1006	100.0	426	100.1	545	100.1	971	100.0

注：端数を四捨五入しているため 100 パーセントにならない場合がある

表 2 基本集計（平均年齢）

	沿岸部			内陸部		
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
平均値	58.4	56.6	57.4	54.3	52.3	53.2
最小値	20	20	20	20	20	20
最大値	98	84	98	98	98	98
標準偏差	13.7	15.0	14.5	15.3	15.6	15.5

表3 基本集計（教育年数）

	6年以下		7年以上9年以下		10年以上12年以下		13年以上15年以下		16年以上		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20歳代	0	0	1	2.0	27	55.1	13	26.5	8	16.3	49
30歳代	2	2.4	10	12.1	37	44.6	11	13.3	23	27.7	83
40歳代	1	0.8	21	16.0	63	48.1	20	15.3	26	19.9	131
50歳代	3	2.0	33	22.0	72	48.0	10	6.7	32	21.3	150
60-64歳	1	0.7	34	23.9	71	50.0	17	12.0	19	13.4	142
65-69歳	2	1.5	52	38.5	52	38.5	10	7.4	19	14.1	135
70-74歳	1	0.9	59	50.4	45	38.5	3	2.6	9	7.7	117
75歳以上	2	4.0	22	44.0	11	22.0	6	12.0	9	18.0	50
女性											
20歳代	0	0	6	7.5	42	52.5	15	18.8	17	21.3	80
30歳代	4	2.6	14	9.0	78	50.3	41	26.5	18	11.6	155
40歳代	4	2.3	21	11.8	98	55.1	38	21.4	17	9.6	178
50歳代	3	1.5	30	15.1	108	54.3	37	18.6	21	10.6	199
60-64歳	4	2.7	38	26.0	87	59.6	12	8.2	5	3.4	146
65-69歳	2	1.5	47	35.3	57	42.9	23	17.3	4	3.0	133
70-74歳	1	0.7	72	49.7	63	43.5	7	4.8	2	1.4	145
75歳以上	1	1.3	44	57.1	26	33.8	6	7.8	0	0	77

表4 基本集計（婚姻状況）

	配偶者と同居		配偶者と別居		内縁関係		死別		離婚		未婚（結婚したことがない）		無回答		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性															
20歳代	12	24.5	0	0	0	0	0	0	1	2.0	36	73.5	0	0	49
30歳代	48	56.5	1	1.2	0	0	1	1.2	3	3.5	30	35.3	2	2.4	85
40歳代	85	64.9	5	3.8	0	0	5	3.8	4	3.1	31	23.7	1	0.8	131
50歳代	91	60.3	1	0.7	0	0	8	5.3	19	12.6	30	19.9	2	1.3	151
60-64歳	101	71.1	2	1.4	0	0	8	5.6	13	9.2	18	12.7	0	0	142
65-69歳	98	71.5	3	2.2	0	0	13	9.5	12	8.8	10	7.3	1	0.7	137
70-74歳	88	75.2	0	0	0	0	18	15.4	5	4.3	5	4.3	1	0.9	117
75歳以上	37	74.0	2	4.0	0	0	7	14.0	4	8.0	0	0	0	0	50
女性															
20歳代	28	35.0	0	0	0	0	0	0	5	6.3	47	58.8	0	0	80
30歳代	88	56.8	1	0.7	1	0.7	18	11.6	17	11.0	30	19.4	0	0	155
40歳代	95	53.4	8	4.5	0	0	29	16.3	21	11.8	25	14.0	0	0	178
50歳代	125	62.5	8	4.0	1	0.5	32	16.0	18	9.0	14	7.0	2	1.0	200
60-64歳	95	64.6	6	4.1	0	0	31	21.1	8	5.4	7	4.8	0	0	147
65-69歳	81	60.9	4	3.0	0	0	36	27.1	6	4.5	4	3.0	2	1.5	133
70-74歳	63	43.5	3	2.1	0	0	65	44.8	9	6.2	4	2.8	1	0.7	145
75歳以上	30	39.0	0	0	0	0	42	54.6	2	2.6	2	2.6	1	1.3	77

表5 基本集計（同居家族の数）

	1人		2人		3人		4人		5人		6人		7人		8人		9人		10人以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
男 性																						
20歳代	11	22.5	3	6.1	12	24.5	8	16.3	3	6.1	5	10.2	4	8.2	2	4.1	0	0	1	2.0		49
30歳代	11	12.9	22	25.9	17	20.0	18	21.2	13	15.3	2	2.4	1	1.2	1	1.2	0	0	0	0	0	85
40歳代	22	16.8	36	27.5	20	15.3	31	23.7	13	9.9	2	1.5	6	4.6	0	0	0	0	1	0.8		131
50歳代	31	20.5	50	33.1	29	19.2	19	12.6	12	8.0	7	4.6	2	1.3	1	0.7	0	0	0	0	0	151
60-64歳	32	22.5	54	38.0	33	23.2	13	9.2	3	2.1	5	3.5	2	1.4	0	0	0	0	0	0	0	142
65-69歳	27	19.7	46	33.6	30	21.9	14	10.2	8	5.8	9	6.6	3	2.2	0	0	0	0	0	0	0	137
70-74歳	23	19.7	62	53.0	19	16.2	4	3.4	4	3.4	5	4.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117
75歳以上	13	26.0	22	44.0	10	20.0	3	6.0	2	4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
女 性																						
20歳代	8	10.0	8	10.0	18	22.5	20	25.0	22	27.5	3	3.8	1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	80
30歳代	14	9.0	23	14.8	32	20.7	35	22.6	22	14.2	18	11.6	7	4.5	3	1.9	0	0	0	0	0	155
40歳代	26	14.6	25	14.0	46	25.8	43	24.2	25	14.0	7	3.9	4	2.3	2	1.1	0	0	0	0	0	178
50歳代	27	13.5	59	29.5	57	28.5	28	14.5	18	9.0	5	2.5	3	1.5	1	0.5	0	0	1	0.5		200
60-64歳	24	16.3	63	42.9	37	25.2	11	7.5	3	2.0	2	1.4	4	2.7	1	0.7	2	1.4	0	0	0	147
65-69歳	36	27.1	55	41.4	24	18.1	8	6.0	8	6.0	1	0.8	0	0	1	0.8	0	0	0	0	0	133
70-74歳	53	36.6	67	46.2	13	9.0	5	3.5	3	2.1	3	2.1	0	0	1	0.7	0	0	0	0	0	145
75歳以上	28	36.4	27	35.1	8	10.4	7	9.1	4	5.2	2	2.6	1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	77

表6 基本集計（職業）

	自営		正社員		非常勤		学生		主婦		無職		その他		不明		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男 性																	
20歳代	3	6.1	24	49.0	10	20.4	7	14.3	0	0	5	10.2	0	0	0	0	49
30歳代	4	4.7	56	65.9	9	10.6	0	0	0	0	14	16.5	2	1.5	0	0	85
40歳代	20	15.3	67	51.2	9	6.9	0	0	0	0	33	25.2	2	1.5	0	0	131
50歳代	32	21.2	54	35.8	12	8.0	0	0	0	0	53	35.1	0	0	0	0	151
60-64歳	25	17.6	25	17.6	28	19.7	0	0	0	0	62	43.7	2	1.4	0	0	142
65-69歳	15	11.0	13	9.5	21	15.3	0	0	0	0	87	63.5	1	0.7	0	0	137
70-74歳	16	13.7	0	0	10	8.6	0	0	0	0	90	76.9	1	0.9	0	0	117
75歳以上	8	16.0	1	2.0	1	2.0	0	0	0	0	40	80.0	0	0	0	0	50
女 性																	
20歳代	3	3.8	20	25.0	27	33.8	5	6.3	16	20.0	9	11.3	0	0	0	0	80
30歳代	7	4.5	37	23.9	53	34.2	0	0	33	21.3	24	15.5	0	0	1	0.7	155
40歳代	12	6.7	27	15.2	56	31.5	0	0	45	25.3	37	20.8	1	0.6	0	0	178
50歳代	24	12.0	31	15.5	48	24.0	0	0	57	28.5	40	20.0	0	0	0	0	200
60-64歳	18	12.2	4	2.7	33	22.5	0	0	56	38.1	36	24.5	0	0	0	0	147
65-69歳	16	12.0	1	0.8	10	7.5	0	0	65	48.9	39	29.3	2	1.5	0	0	133
70-74歳	12	8.3	0	0	1	0.7	0	0	57	39.3	74	51.0	1	0.7	0	0	145
75歳以上	4	5.2	0	0	1	1.3	0	0	27	35.1	45	58.4	0	0	0	0	77

表7 基本情報（収入の分布）

	100万未満		100~200万未満		200~300万未満		300~400万未満		400~600万未満		600~800万未満		800~1000万未満		1000~1200万未満		1200~1500万未満		1500万以上		収入なし		不明		合計		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%			
男性																											
20歳代	5	10.2	13	26.5	14	28.6	6	12.2	1	2.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	12.2	4	8.2	49
30歳代	9	10.6	15	17.7	18	21.2	12	14.1	18	21.2	2	2.4	1	1.2	2	2.4	0	0	0	0	0	0	3	3.5	5	5.9	85
40歳代	14	10.7	13	9.9	26	19.9	24	18.3	19	14.5	14	10.7	1	0.8	0	0	0	0	0	0	1	0.8	7	5.3	12	9.2	131
50歳代	15	9.9	26	17.2	25	16.6	16	10.6	24	15.9	15	9.9	3	2.0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	11.3	10	6.6	151
60-64歳	21	14.8	48	33.8	24	16.9	13	9.2	12	8.5	6	4.2	2	1.4	0	0	2	1.4	0	0	0	0	9	6.3	5	3.5	142
65-69歳	20	14.6	52	38.0	37	27.0	8	5.8	4	2.9	3	2.2	3	2.2	1	0.7	0	0	0	0	0	0	4	2.9	5	3.7	137
70-74歳	25	21.4	44	37.6	29	24.8	9	7.7	3	2.6	1	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.7	4	3.4	117
75歳以上	6	12.0	22	44.0	13	26.0	2	4.0	1	2.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	12.0	50
女性																											
20歳代	15	18.8	23	28.8	11	13.8	4	5.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	30.0	3	3.8	80
30歳代	38	24.5	38	24.5	14	9.0	16	10.3	4	2.6	1	0.7	0	0	1	0.7	0	0	0	0	0	0	30	19.4	13	8.4	155
40歳代	49	27.5	44	24.7	18	10.1	12	6.7	4	2.3	2	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	22.5	9	5.1	178
50歳代	62	31.0	30	15.0	18	9.0	11	5.5	9	4.5	5	2.5	1	0.5	1	0.5	0	0	0	0	0	0	51	25.5	12	6.0	200
60-64歳	66	44.9	38	25.9	9	6.1	1	0.7	0	0	0	0	1	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	20	13.6	12	8.2	147
65-69歳	59	44.4	38	28.6	11	8.3	1	0.8	3	2.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	10.5	7	5.3	133
70-74歳	87	60.0	36	24.8	12	8.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.7	5	3.5	4	2.8	145
75歳以上	44	57.1	22	28.6	6	7.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.3	4	5.2	77

表 8 被災関連の情報（震災による仕事の変化の有無）

	沿岸部							内陸部						
	震災で失業		震災と無関係に退職		変化なし		合計	震災で失業		震災と無関係に退職		変化なし		合計
	実数	%	実数	%	実数	%								
男 性														
20 歳代	2	66.7	1	33.3	0	0	3	0	0	0	0	2	100.0	2
30 歳代	0	0	2	25.0	6	75.0	8	1	16.7	0	0	5	83.3	6
40 歳代	5	21.7	5	21.7	13	56.5	23	0	0	0	0	10	100.0	10
50 歳代	11	27.5	3	7.5	26	65.0	40	0	0	2	15.4	11	84.6	13
60-64 歳	8	22.9	9	25.7	18	51.4	35	1	3.7	5	18.5	21	77.8	27
65-69 歳	13	24.5	10	18.9	30	56.6	53	1	2.9	3	8.8	30	88.2	34
70-74 歳	13	22.8	13	22.8	31	54.4	57	0	0	4	12.1	29	87.9	33
75 歳以上	5	20.0	1	4.0	19	76.0	25	0	0	0	0	13	100.0	13
女 性														
20 歳代	1	7.1	1	7.1	12	85.7	14	1	9.1	1	9.1	9	81.8	11
30 歳代	7	21.9	5	15.6	20	62.5	32	0	0	2	8.3	22	91.7	24
40 歳代	14	26.4	5	9.4	34	64.2	53	0	0	3	10.3	26	89.7	29
50 歳代	17	37.8	1	2.2	27	60.0	45	2	4.1	2	4.1	45	91.8	49
60-64 歳	7	13.7	7	13.7	37	72.6	51	1	2.6	2	5.3	35	92.1	38
65-69 歳	14	20.3	4	5.8	51	73.9	69	0	0	0	0	31	100.0	31
70-74 歳	17	20.5	3	3.6	63	75.9	83	0	0	2	5.1	37	94.9	39
75 歳以上	10	23.3	2	4.7	31	72.1	43	0	0	1	3.9	25	96.2	26

表9 被災関連の情報（自宅の被災状況）

	沿岸部											内陸部										
	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊		損壊なし		合計	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊		損壊なし		合計
男 性	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
20歳代	16	94.1	0	0	1	5.9	0	0	0	0	17	0	0	1	3.1	0	0	9	28.1	22	68.8	32
30歳代	26	92.9	2	7.1	0	0	0	0	0	0	28	1	1.8	0	0	2	3.5	20	35.1	34	59.7	57
40歳代	62	93.9	1	1.5	2	3.0	1	1.5	0	0	66	0	0	1	1.5	3	4.6	22	33.9	39	60.0	65
50歳代	72	92.3	4	5.1	2	2.6	0	0	0	0	78	1	1.4	2	2.7	5	6.9	28	38.4	37	50.7	73
60-64歳	61	85.9	8	11.3	2	2.8	0	0	0	0	71	3	4.2	0	0	4	5.6	26	36.6	38	53.5	71
65-69歳	67	93.1	2	2.8	0	0	0	0	3	4.2	72	3	4.6	2	3.1	3	4.6	23	35.4	34	52.3	65
70-74歳	68	90.7	5	6.7	0	0	0	0	2	2.7	75	1	2.4	0	0	1	2.4	14	33.3	26	61.9	42
75歳以上	25	86.2	2	6.9	1	3.5	0	0	1	3.5	29	1	4.8	0	0	0	0	5	23.8	15	71.4	21
女 性																						
20歳代	21	72.4	6	20.7	2	6.9	0	0	0	0	29	0	0	0	0	2	3.9	12	23.5	37	72.6	51
30歳代	59	88.1	5	7.5	1	1.5	1	1.5	1	1.5	67	0	0	1	1.1	5	5.7	26	29.6	56	63.6	88
40歳代	87	89.7	7	7.2	2	2.1	1	1.0	0	0	97	2	2.5	1	1.2	4	4.9	22	27.2	52	64.2	81
50歳代	68	85.0	9	11.3	2	2.5	0	0	1	1.3	80	2	1.7	0	0	9	7.5	59	49.2	50	41.7	120
60-64歳	66	90.4	4	5.5	2	2.7	1	1.4	0	0	73	3	4.1	1	1.4	2	2.7	31	41.9	37	50.0	74
65-69歳	75	91.5	7	8.5	0	0	0	0	0	0	82	0	0	1	2.0	5	5.9	19	37.3	28	54.9	51
70-74歳	85	90.4	4	4.3	2	2.12	2	2.1	1	1.1	94	0	0	0	0	2	3.9	23	45.1	26	51.0	51
75歳以上	45	99.8	2	4.2	1	2.1	0	0	0	0	48	0	0	2	6.9	1	3.5	9	31.0	17	58.6	29

表 10 被災関連の情報（調査時点の居住場所）

	沿岸部												内陸部													
	震災前と同じ		プレハブ仮説住宅		みなし仮説		親戚・友人宅		建替え新築		その他		合計	震災前と同じ		プレハブ仮説住宅		みなし仮説		親戚・友人宅		建替え新築		その他		合計
男 性																										
20 歳代	1	5.9	16	94.1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	29	96.7	0	0	0	0	1	3.3	0	0	0	0	30
30 歳代	1	3.6	27	96.4	0	0	0	0	0	0	0	0	28	48	94.1	0	0	1	2.0	0	0	2	3.9	0	0	51
40 歳代	1	1.5	64	97.0	1	1.5	0	0	0	0	0	0	66	60	93.8	0	0	1	1.6	1	1.6	2	3.1	0	0	64
50 歳代	4	5.1	74	94.9	0	0	0	0	0	0	0	0	78	71	97.3	0	0	1	1.4	1	1.4	0	0	0	0	73
60-64 歳	1	1.4	70	98.6	0	0	0	0	0	0	0	0	71	69	97.2	0	0	1	1.4	0	0	1	1.4	0	0	71
65-69 歳	2	2.8	70	97.2	0	0	0	0	0	0	0	0	72	62	96.9	0	0	1	1.6	0	0	1	1.6	0	0	64
70-74 歳	1	1.3	73	97.3	1	1.3	0	0	0	0	0	0	75	40	95.2	0	0	1	2.4	0	0	1	2.4	0	0	42
75 歳以上	0	0	29	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	19	95.0	0	0	1	5.0	0	0	0	0	0	0	20
女 性																										
20 歳代	0	0	29	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	40	85.1	0	0	2	4.3	5	10.6	0	0	0	0	47
30 歳代	0	0	67	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	82	96.5	0	0	0	0	2	2.4	1	1.2	0	0	85
40 歳代	1	1.0	96	99.0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	74	96.1	1	1.3	1	1.3	1	1.3	0	0	0	0	77
50 歳代	2	2.5	78	97.5	0	0	0	0	0	0	0	0	80	119	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113
60-64 歳	1	1.4	72	98.6	0	0	0	0	0	0	0	0	73	70	95.9	0	0	2	2.7	0	0	1	1.4	0	0	73
65-69 歳	5	6.1	77	93.9	0	0	0	0	0	0	0	0	82	50	98.0	0	0	0	0	0	0	1	2.0	0	0	51
70-74 歳	4	4.3	90	95.7	0	0	0	0	0	0	0	0	94	51	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
75 歳以上	1	2.1	47	97.9	0	0	0	0	0	0	0	0	48	29	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29

表 11 被災関連の情報（家族・親戚の喪失）

	沿岸部					内陸部				
	あり		なし		合計	あり		なし		合計
	実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	
男 性										
20 歳代	7	41.2	10	58.8	17	4	12.5	28	87.5	32
30 歳代	8	28.6	20	71.4	28	5	8.8	52	91.2	57
40 歳代	27	40.9	39	59.1	66	4	6.2	61	93.9	65
50 歳代	41	52.6	37	47.4	78	6	8.2	67	91.8	73
60-64 歳	27	38.0	44	62.0	71	8	11.3	63	88.7	71
65-69 歳	38	52.8	34	47.2	72	6	9.2	59	90.8	65
70-74 歳	41	54.7	34	45.3	75	5	11.9	37	88.1	42
75 歳以上	11	37.9	18	62.1	29	3	14.3	18	85.7	21
女 性										
20 歳代	10	34.5	19	65.5	29	5	9.8	46	90.2	51
30 歳代	41	61.2	26	38.8	67	10	11.4	78	88.6	88
40 歳代	49	50.5	48	49.5	97	4	4.9	77	95.1	81
50 歳代	44	55.0	36	45.0	80	15	12.5	105	87.5	120
60-64 歳	37	50.7	36	49.3	73	6	8.1	68	91.9	74
65-69 歳	44	53.7	38	46.3	82	4	7.8	47	92.2	51
70-74 歳	47	50.0	47	50.0	94	7	13.7	44	86.3	51
75 歳以上	26	54.2	22	45.8	48	2	6.9	27	93.1	29